

COOP-JOSO News Letter

2019年10月1回号 発行/常総生協広報G

2019年度活動テーマ「JOSO食材でかんたん・おうちごはん」

過去最大級の台風15号は関東の住民、生産者に大きな爪痕を残していきました。

(台風15号による生産者被害状況(2019年9/12時点の情報))

生産者	産地	商品	被害状況
浅野農園	茨城県(常総市)	小松菜150g	トンネルが飛び、作物本体に被害。
鈴木牧場	茨城県(石岡市)	ヨーグルト(加糖)	台風通過時停電。→9/9(月)18:30頃復旧した。
土れ味農園	茨城県(石岡市)	黒さんご、野菜セット	ハウスが一部破損、また露地栽培作物が被害。
微生物農法の会	茨城県(石岡市)	トマト、きゅうり、野菜セット	ハウスが一部破損、また露地栽培作物が被害。
宇治田農場	茨城県(石岡市)	野菜セット	鶏舎が一部雨ざらし、また露地栽培作物が被害。
清水農園	茨城県(坂東市)	野菜セット	露地栽培作物が被害
中村農芸	茨城県(取手市)	ベビーリーフ	ハウスに一部破損、その後病害・害虫の恐れあり
木村農園	茨城県(つくば市)	オクラ、アイコトマト、なす	ハウスに一部破損。また露地栽培作物が被害。
岩瀬牧場	茨城県(土浦市)	豚肉	強風により倒木。豚舎の倒壊、事務所屋根が剥がれた。豚舎の屋根も一部破損。
JAやさと(鶏卵)	茨城県(石岡市)	卵	台風通過時停電。→9/9(月)19:00頃復旧した。
丸和食品	千葉県(成田市)	豆腐関連商品	成田工場が停電で復旧の見込みがまだ立たず、成田工場生産の8商品(木綿豆腐、絹豆腐、ミニ木綿豆腐、ミニ絹豆腐、厚揚げ、一口厚揚げ、絹生揚げ、油揚げ)に影響あり。→9/12(木)復旧しておらず。
ますだ	千葉県(八街市)	落花生	八街工場が停電また一部破損→9/12(木)電気は復旧した。
三里塚物産	千葉県(成田市)	しそジュース	台風通過時停電→9/12(木)復旧しておらず。
三里塚ワンパック	千葉県(成田市)	野菜セット(千葉コースのみ)	台風通過時停電、鶏舎一部破損→9/12(木)復旧しておらず。
林さん達	千葉県(多古町)	小松菜200g	ハウスがほぼ全壊、吹きさらしとなり農作物に被害。
樺沢さん	群馬県(前橋市)	つる菜	ハウスが一部破損、吹きさらしとなり農作物に被害。

9日午前5時前に千葉市付近に上陸し、首都圏では一部地域が冠水したほか、鉄道や空の便が運休となりました。千葉市を中心に大きな爪痕を残し、現在(2019/9/12時点)も停電、電波障害等が続いており、住民に大きな被害をもたらしています。常総生協は9日、10日と2日間被害の大きかった生産者の所へ応援に行って来ました。

9/9(月)岩瀬牧場、台風により豚舎と事務所の屋根が破損

○岩瀬牧場からのSOS

9日(月)朝8:00頃に岩瀬卓子社長から「台風で豚舎の破損等があるため、人手がほしい。1人でも良いから応援に来てもらうことは出来ないか?」と電話があり、急遽午前中に1人、午後から追加で3人が生協から応援に行きました。

先代の岩瀬弘(いわせひろし)社長が一番最初に建てた豚舎が倒木により倒壊してしまいました。幸いここに入っていた豚は卓子社長により救出され、被害はなかったとのこと。この豚舎の向かい側に種豚(オス豚)の豚舎もあり、その豚舎にも倒木した木が乗っかっていた

状況でした。そのまま木が乗っかっていると、種豚の部屋が倒壊してしまう恐れがあったので、チェーンソーで牧場スタッフの小宮さんが切り倒して、生協職員2人が屋根から落として、一か所にまとめる作業を行いました。



次に事務所の屋根が強風で剥がれてしまったので、牧場スタッフの内村さんと生協職員2人で屋根の修繕作業

にあたりました。

この日の牧場は岩瀬卓子社長含めて3人体制でしたので、この状況の中では応援に行く事で、現場の人たちの気持ち楽になってもらえたように感じました。



9/10(火)千葉の生産者「三里塚ワンパック」と八街市 落花生の「ますだ」さんへ応援と視察に行きました。

9/9(月)に生協の集荷便でやさと-行方-三里塚(成田市)の状況を見てもらったうえで、成田方面の被害が大きいと判断し、9/10(火)に生協から6人で応援に行く事にしました。

○三里塚 ワンパックの被害状況



「鶏舎が強風で剥がれていて、停電状況が続いているため、餌の攪拌機(かくはんき)が動かない、水が止まっているため、鶏に水があげれない。」と生産者の樋ヶ(ひのけ)さんからの事前情報を仕入れて、生協から賞味期限切れの飲料水5ケースと500kg入るタンクにお水を入れてトラックに積んで届けてきました。

現場では屋根の飛び散った木材、波板をまとめる作業と、電気が止まり、エサのサイロからの供給が出来なため、手動でスクルーコンベアを回し、エサを取り出す作業をしてきました。

○ますだの落花生被害状況

三里塚ワンパックの応援後に電気が通っていない、電話もつながらない状況の八街市のますださんの所へ行ってみることにしました。

店舗は休業日ということで誰もいなく、自宅に増田専務だけいて、少しだけお話し出来ました。



「収穫前の落花生事態に影響はありません。しかし、電気が止まっているので、色々作業したくても出来ない状況。この辺りは電柱が折れていたり、倒木していたりで混乱している。うちも倉庫などは少しやられましたけどね。すべては電気が通ってからですね。」と増田専務が話してくれました。

作業を行うことはなかったのですが、電話も通じなかったので、増田専務が元気でいてくれたことが何より良かったです。



常総生協にも2次被害発生！？ドライアイス不足。

2019/9/12の夕方、ドライアスを発注している会社から「製造している千葉県市原市にある工場が停電のため製造が出来ていないのと、原料の調達先も台風の影響で稼働できていないため、発注している数量の7割カットでのお届けをお願いしたい」と連絡が入りました。通常通りの供給量に戻る時期が今のところ未定との事です。



○ドライアイス使用量削減に向けてご協力のお願い

他生協、生産者にも協力をもらいながらドライアスを確保していく手立ては出来ましたが、コストは2倍から高く5倍近くかかる予想です。残暑が残る暑い気温が続いているので、温度管理の面からも減らす事が厳しい状況ですが、組合員の皆様にもご協力をしていただき、なるべく早く冷凍庫にしまふ、受取を極力する、職員側でも供給現場で冷凍専用の蓄冷剤も多めに使用する等でドライアスの使用量を減らしていければと思います。ご協力が可能な方は是非供給担当にお伝えください。

○持続可能な供給体制の検討

ドライアイスは原油をガソリンなどを生成する際に出る副産物(CO2)が原料となります。近年では若者の車離れ、エコ自動車の普及ということもあり、ガソリンを昔ほど消費しなくなったこともあり、ドライアスの原料も比例して減少している状況です。

改めて、この先ドライアスの使用自体が持続可能な生協商品の供給の在り方なのか、どうなのか？と考えさせられる事となりました。

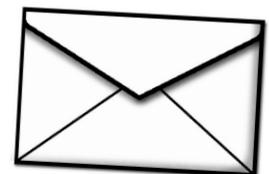
常総生協では冷蔵と冷凍の蓄冷剤2種類があります。冷凍の蓄冷剤はとても強力ですが、ドライアイスゼロに持っていけるわけではありません。温度計測を再度検証しながら、ドライアイス&蓄冷剤のバランスを見直し、ドライアスを削減できるレベルに出来るか？を検討していきます。

被害にあった産地へエールと、たすけあい基金のお知らせ

被害にあった生産者へエール、災害や、予測できない非常事態に備える意味で、常総生協では「JOSO たすけあい基金」NO. **473** (1口500円) を実施しています。毎週注文番号で基金を募っています。

また、応援メッセージを送りましょう。注文書の意見欄にご記入いただくか、ホームページの「組合員専用問い合わせ」フォームにご入力下さい。

ご協力よろしくお願い致します。



2019年9月の予定

○生協基幹運営/地域活動・催し●	○提携・協同・連帯企画●
9月ゴンタの丘「常総っ子応援団」は毎週木曜日に活動しています。試食会は9月26日に開催します。	9/20、21(金、土)生協ネットワーク21組織担当者会議 (常総生協本部)
9/21(土)歴史を学ぼう-未来のために(常総生協本部)	9/28(土)坂東市消費生活展 出展
9/25(水)定例理事会	NPO里山再生と食の安全を考える会 総会
9/28(土)常総生協実験田稲刈り(常総市東町)	9/28、29(土、日)守谷市商工会まつり

日時：2019/10/5(土) 13～14時

場所：常総生協本部組合員室

資料代：500円

福島原発事故のプルーム通過によって放射能汚染地域となった関東エリア。2013年1月、常総生協の子ども達164名の甲状腺検診(病院に依頼)から始まった関東での甲状腺検診。

同年9月に市民の手で立ち上げた「関東子ども健康調査支援基金」(事務局:常総生協)の年次報告会は今年で6回目を迎えます。医師と市民の協力で延べ10,000人を超える子どもたちの甲状腺検診を実施しました。6年間の検診の状況を報告します。



いいたて雪っ娘(ゆきっこ) かぼちゃ収穫イベント

常総市水害の際に、地域のお母さんたちを少しでも元気にできればと、福島県飯舘村の渡辺とみ子さんをお呼びして講演会、料理講習会を開催しました。渡辺とみ子さんは、農産物の加工所を立ち上げられた方で、福島第一原発事故で全村避難となる中で、「あきらめないことにした」と飯舘村周辺の避難をしているかあちゃんたちと一緒に農産物の加工、弁当、惣菜の販売の事業を立ち上げられ、放射能の汚染とのたたかい、避難生活の中での頑張り、これからの夢を語ってもらいました。

渡辺さんは今、福島市内と飯舘村の3か所の畑で「いいたて雪っ娘」という地場の品種のかぼちゃを育て、このブランドかぼちゃの普及啓発に取り組まれています。

そんな関係性から常総生協では飯舘村に出向き、今年から種まき、草取りなどの作業に参加しています。今回、11月の生協まつりでの「いいたて雪っ娘」の販売に合わせて、そのかぼちゃの収穫作業を行います。原発事故の被害を受け止めながら暮らしていくとはどんなことなのか、この目でみながら一緒に考えていけたらと思います。



日時：2019年10月6日(日) 7:20～19:30

集合場所：常総生協本部(7:30出発)

参加費：3000円(交通費+昼食代)

備考

- 生協職員の運転する車で福島県飯舘村の畑に向かいます。
- 現地では畑にてかぼちゃの収穫を行いますので、汚れてもよい服装、靴、軍手等をご持参ください。
- 悪天候でないかぎり、雨天でも行う予定です。(その際は合羽必要)
- 作業内容はかぼちゃの収穫、磨き作業になります。
- 収穫したかぼちゃは、**11月2日の生協まつりで販売をする予定です。**
- 除染はされていますが、線量の高い場所での農作業になります。ご承知おきください。

参加申し込み書

コース _____ 組合員NO. _____

名前 _____ 電話番号 _____

いいたて雪っ娘 収穫イベント

